で変配。HOPEBOAT知識技術マナー安全航海ハンドブック



あなたにボート免許があろうがなかろうが、海は平等に時化ますし、トラブルも発生させます。 また海や川、湖には、海上衝突予防法をはじめとするいくつかの海上交通ルールがあり、 船長がそれを知っていようがいまいが、これらのルールは平等に適用されます。

さらに、法律には定められていなくても、安全に航行するために、やってはいけないこともいくつかあります。 ここでは、そういったことを含めて、安全にホープボートで遊ぶための基本知識、常識、マナーを解説します。



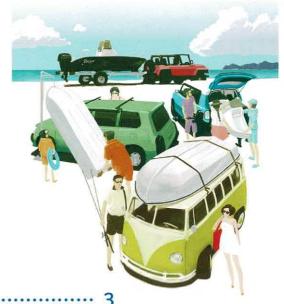
操縦者の心得

- ① 必ず全員救命胴衣を着用の事
- ② 天候の状況に適した人数で乗る事
- ③ 他の舟が帰港する時は必ず帰港する事
- ④ 天候が急転した場合は一番近い岸に 逃げ込む事
- ⑤ 法定備品は必ず積込む事
- ⑥ 人員及び積込品の配置を適正にする事
- ⑦ 飲酒運転は絶対にしない事
- 8 定員を守り、荷物を積みすぎないようにしてください。 バランスよく配置し固定してください。
- ⑨ 船内は火気厳禁です。特にガソリンタンク給油時は喫煙等火種を近づけてはいけません。
- ⑩ 次の水域には近づかないでください。
 - 人が泳いでいるところ
 - ・船舶が混雑しているところ
 - 波の荒いところ
- ① ゴミ、ガソリン、オイル等船外に投棄 しないでください。
- ② 水上の交通ルール 「海上衝突予防法、 港湾法等」 守る事
 - (例)・右側通行・夜間航行の禁止
 - ・他船の前を横切ってはいけない。
 - ・港内は徐行する事

定員を守ろう

最大搭載人員 **3** (株) ホーブ
(株) ホーブ
(株) ホーブ
(株) ホーブ
(株) ホーブ

HOPE BOAT 安全航海ハンドブック CONTENTS



● 船舶免許不要ボートとは 3
② 船舶免許不要ボートの特性 4
③ 船長の遵守事項 5
④ 推奨される装備品 6
⑤ 海難事故と事故予防 8
⑥ 気象・海象の判断9
② 落水・転覆時の対処法10
③ 落水時の危険について11
⑨ 曳航12
⑩ 船外機の取り扱い13
● 船外機の点検整備 ・・・・・・・・・・・18
⑩ ボートの取り扱い19
⑱ ボートトレーラーの取り扱い 21~24
海上交通のルール
■ 発航前点検リスト
⑩ 走航中の注意点 27~28
🕡 釣りをする際の注意点 29
⑩ ボートの出艇場所30
⑩ ボートの購入と管理31
⑩ ボート免許32
② 船外機のトラブルシューティング 33~35



① 船舶免許不要ボートとは

~長さ3m未満、出力1.5kW未満なら免許不要~

"船舶の長さ"(登録長)が3m未満(船体長さ3.33m未満)で、推進機関(船外機やエレキモーター)の出力が1.5kW未満(2馬力以下)のボートは、推進機関付きであってもボート免許(小型船舶操縦士免許)なしで操船することができます。また、法令に基づく船舶検査(自動車の車検にあたる)も不要となります。このカテゴリーのボートを船舶免許不要ボートと呼びます。

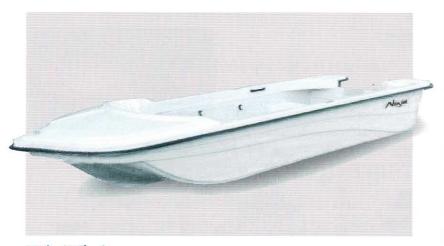
なお推進機関がエレキモーター以外では、「緊急エンジン停止スイッチ、遠心クラッチ、中立ギア、プロペラガードなど、直ちにプロペラの回転を停止することができ、プロペラによる人の身体の障害を防止する構造を有すること」という条件が付記されています。

手軽に海や湖に降ろして遊べる船舶免許不要ボートですが、事故も多く起きています。正しい知識を身につけ、 安全に楽しみましょう。



インフレータブルボート

使用時に空気を入れて膨らませるタイプで、収納・運搬に便利。海上では横安定性に 優れ転覆しにくいという特性もあります



リジッドボート

FRP(繊維強化プラスチック)などの硬質素材でできたタイプ。波切りなど走行性能に優れ、装備を取り付けやすいのも利点です







2馬力船外機

始動はセルではなくスターターロープを引くマニュアル式。燃料タンクは内蔵されています。 後進は船外機を180度反転させて行います



2 船舶免許不要ボートの特性

~波や風の影響を受けやすいので注意~

メーカー指定の定員を遵守しましょう。2人乗り、あるいは荷物が多くボートが重くなっていると、速力は4ノット前後(約7km/h)といったところです。

ボートが安全に航行できる範囲は、波の高さが20cmくらいまで(ボートの乾舷(=水面から船べりの高さ)までの半分以下)、風速は4m/s以下としましょう。これらを超えている海沢の場合は出航しないようにしましょう。

また、海でボートに適した行動範囲は、岸から1km程度(海岸にいる人の動きがわかるくらいの距離)。エンジンが故障した時のことも考え、オールで漕いで戻ってこられる範囲で遊びましょう。なお、2馬力船外機の内蔵タンクは容量1リットル程度。フルスロットルで連続走行できるのは1時間くらいで、これも海況が悪いと極端に燃費が悪くなります。

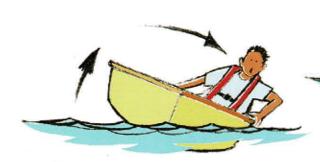
またリジッドタイプのボートは、横波を受けたり、乗っている人が片側に寄ったりすると傾きやすく、落水や転覆の危険もあります。メーカー指定の定員を遵守し、船内では立ち上がったり急激に動いたりしない、横波を受ける状態で走り続けない、など、ボートのバランスに気をつけましょう。なお、リジットボートはサイドフロートを装備することにより、浮力(復原力)が増して転覆しにくくなります。

片舷に人が寄ったり、横波を受けると危険

インフレータブルボート以外のボートは、横幅が狭く、比較 的簡単に傾きます。片舷に人が寄ったり、横波を受けたり した状態はかなり不安定になります

▲ 危 険

安全に航行できる範囲を超えた場合、航行不能や転覆する危 険があります。 出航しない、または直ちに帰港してください。





サイドフロート (安心な装備)

救助活動

[レスキューチューブに変身!] ※チューブ固定ベルトは、取り外し簡単!!



類似品にご注意ください。









サイドフロートの装着により、船外から船内へ引き上げる時、ボートのかたむきが少なくてすむので安全に救助できま

3 船長の遵守事項

~救命胴衣を着用させるのも船長の義務~

ボートも、法律上は"動力船(小型船舶)"に含まれ、海に出れば漁船や貨物船などと同じ"船"として扱われます。 海上(湖や川など内水域も)では、国際法の「海上衝突予防法」と言われる交通ルールが適用されます。法律上の ルールには罰則を伴います。万が一、過失から事故を起こしてしまった場合は、刑事処分が科せられたり、損害賠 償が請求されたりする可能性もあります。万が一の場合に備えて、プレジャーボート用の損害賠償保険に加入す ることが望ましいでしょう。また、免許は不要ですが、ボートは小型船舶です。「船舶職員及び小型船舶操縦者法」 に定められた「船長の遵守事項」に準拠し、ボートの船長として下記のことを心掛けましょう。

船長の遵守事項

・酒酔い等操縦の禁止

酒酔い状態等での操縦は禁止されています。

・危険操縦の禁止

遊泳者等の付近で危険な速度や、急旋回、ジグザグ航行することは禁止されています。

・定員の遵守

艇体の決められた定員を守りましょう。

・救命胴衣などの着用

船長はもとより常に乗船者全員に着用させるようにしましょう。

・出航(発航)前点検の実施

燃料やオイルの量、冷却水の排出状況、艇体設備の点検以外に、気象や水路の情報収集を 行わなければなりません。

・適切な見張りの実施

常時、適切な見張りを確保します。

・事故時の対応

事故時には、人命救助に必要な手段を尽くさなければなりません。

安全で快適な運航のため下記の点を守ってください。

・平穏な水域で使用しましょう。

波高は船側高さの50%(約20cm)以下、または風速は4m/s以下で使用しましょう。

- ・岸から1km以内で使用しましょう。
- ・霧が出た時や夜間は出航をしないようにしましょう。
- ・取扱説明書をよく読んで、その指示に従ってください。
- ・取扱説明書に従って、専門業者による適切なメンテナンスと定期整備を行ってください。

4 推奨される装備品

~他船から見えやすくする装備も必要~

ボートで出航する際、一般的に必要とされる装備品には以下のようなものがあります。 ボート用品の販売店で舶用品を購入しましょう。

救命胴衣 (ライフジャケット)	海辺に行く時から着用し、乗船します。国土交通省型式承認品(桜マーク入り やJCIの性能鑑定を受けたCSマーク付きの救命胴衣(一般的に体重の10% 上の浮力を持つ)を推奨します。体にフィットするものを選びましょう。	
ロープ	船舶用の太さ6mm以上で、長さ10m以上のアンカーロープを、係船・曳航用ロープと兼用して装備します。	
アンカー(錨)	ダンフォース型は1.5~2.5kgのモデル、フォールディング型は3.0kgまでのモデ ルを装備します。	
バケツ	万一の浸水時に排水のために必要です。	
携帯電話	完全防水性の機種、または防水パックに入れて持参します。携帯電話には緊連絡先や天気予報確認先を短縮に入れ、素早く発信できるようにしておきます 出航前にバッテリーが十分充電されていることも確認しましょう。	
予備燃料	万一の燃料切れに備えて、ボート専用携行缶に入れておきます。 古いガソリンは、 劣化したり結露水が混入してエンジントラブルの原因にもなるので、常に新しい ガソリンを用意しましょう。	
オール	燃料切れや機関故障の時に漕いで帰港するために必要です。オールロックがない場合は、ショップに相談しましょう。	



工具	船外機の点検整備に必要な工具を装備しましょう。ドライバーセット、レンチセップライヤー、プラグレンチ、ウエス。	
安全小旗(オレンジフラッグ)	自船の位置を認識させ他船との衝突防止のための目印として、 <mark>ボートにセット</mark> して、掲げます。	
音響信号器(笛)	他船に自分のボートの位置を知らせるために使用します。 視界が悪いときなどは、 海中に転落したときも有効です。 霧の中での航行は危険です。 出航をやめましょう。	
信号紅炎	信号紅炎は、非常時において、他船やヘリコプター等の航空機に自分のボー 位置を知らせるために使用します。	
航海灯	夜間(日没から日出までの間)に航行する場合、法定上、白色の全周灯(7ノットを超す場合は航海灯一式)を点灯しなければなりません。しかし、他船から海面近くの全周灯が確認しづらく、衝突の危険性が高く、自船の位置がわからなくなり帰れなくなることがあるので、夜間は無理な航行は控えましょう。ただし、2馬力免許不要ボートの夜間航行は禁止です。	
空気入れポンプ (インフレータブルボート)	インフレータブルボートに空気を注入するために使用します。フットポンプや電動ポンプがありますが、プレッシャーゲージを用いて取扱説明書に記載された空気圧を注入しましょう。	
プレッシャーゲージ (インフレータブルボート)	インフレータブルボートの空気圧を測定するために使用します。 取扱説明書に記載された空気圧を保つようにしましょう。	
サイドフロート	FRPボートの横安定性を高め、転覆を防止するための装備です。装備されている艇を推奨します。	
服装	他船から見えやすくするため、できるだけ目立つ色のウエアを着るようにしましょう。	

サイドフロート



サイドフロート2600



サイドフロート(RC)

サイドフロート RC-2000DR



サイドフロート RC-2600DR



安全小旗(オレンジフラッグ)



サイドフロート RC-3200DR



⑤ 海難事故と事故予防

~単独の出艇は避け複数艇で行動を~

過去5年間のボート海難事故の種類を見ると、もっとも多いのは「転覆」。また、海難事故に至る原因では「機関 取扱」が最多で、次に「気象海象不注意」となっています。

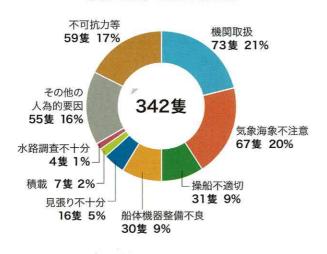
海況が悪ければ海に出ないのが大前提ですが、波が穏やかであっても油断はできません。サイズが小さく軽量なボートは、立ち上がったり、海に落ちたものを拾おうとして船外に乗り出したり、アンカーを揚げようとした際などに、落水・転覆するケースがあります。

落水・転覆は命の危険に直結します。まずは荒天時は出航しないことと荒天前に帰港すること、救命胴衣を正し く着用すること。そして、船上では姿勢を低くし、バランスを崩さないよう注意することが肝要です。

なお出艇前には、必ず家族など陸上で待つ人に予定を伝えておくこと。そして、単独では行動せず、仲間のボートと一緒に海に出ることも、海難事故予防のために必要な心がけです。また、エンジンの点検整備不良による海難事故も多いので、信頼できるエンジンを装備しましょう。

ボートの海難事故の種類 (平成26~30年の5年間の累計。海上保安庁資料より)

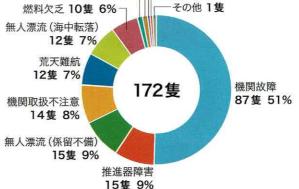
[原因別事故発生状況]



[海難種類別事故発生状況]









Water Safety Guide

海上保安庁が提供するウォーター アクティビティの総合安全情報サイト

ミニボート 編



~最新情報をチェックし、慎重な判断を~

出艇の前日には、必ず風や波などの予報をチェックしてください。気象庁の天気予報は、朝5時、午前11時、午後5時の1日3回(状況によってはそれ以外の時にも)発表されますから、最低でも2回はチェックし、海況が悪そうであれば翌日の出艇はあきらめましょう。

当日も、朝、自宅を出る前に最新の天気予報を確認します。前日に穏やかといる予報が出ていても、当日朝には予報が変わっていることは珍しくありません。もちろん、現地に行ってみて<mark>多少なりとも不安を感じるような海況であれば、出艇は中止</mark>しましょう。せっかく来たのだから……と無理に海に出たことが、事故につながるケースは非常に多いのです。

また海上でも、常に海況の変化に気をつけましょう。スマートフォンがあれば、エリアごとの細かい予報を出しているサイトを閲覧することもできます。もちろん、実際に風が強まりそうだと感じられたり、水平線がギザギザに見えたり(沖で風が強まっている証拠)したら、迷わずに帰航しましょう。

ボートで安全に航行できる気象・海象条件である、約4m/sの風速とは、顔に風を感じる、または装備しているフラッグがなびく程度の風。約20cmの波高とは、腕を伸ばし親指を立てて、7m先の波の高さと親指の爪の高さが同一となります。それ以上の風や波がある条件では、ボートで海に出るのは止めましょう。

▲ 危 険

安全に航行できる範囲を超えた場合、航行不能や転覆する危険があります。出航しない、または直ちに帰港してください。

7 落水・転覆時の対処法

~船体につかまったまま救助を待つ~

万が一、転覆してしまった場合は、まず速やかに救助を呼ぶこと。仲間のボートや、出艇場所の管理者、あるいは 海上や港内等では118番(海上保安庁緊急通報用電話番号)、河川や湖等では110番または119番に電話しま す。そのためにも携帯電話やスマートフォンは防水パックに入れ、船上では常に身に着けていることが大切です。

そして、**浮いている船体につかまって救助を待ちます**。岸が見えていたとしても、浮いている**船体から離れて自力で泳ぎ着こうとしてはいけません**。着衣で救命胴衣をつけた状態は泳ぎにくく、潮や風に流されたり、低体温症になる危険があります。

乗員が落水した場合は、再乗艇しようとしてバランスを崩し、悪戦苦闘しているうちに体力が奪われる結果にもなり かねません。転覆した場合と同じく、浮いている船体につかまって救助を待つのがセオリーです。



転覆してしまった場合は船から離れず、浮いている船体につかまって救助を待ちましょう

救助要請の信号

- 信号紅炎のオレンジ色の煙を発することによる信号
- 左右に伸ばした腕を繰り返しゆっくり上下させることによる信号

8 落水時の危険について

~溺水だけでなく低体温症の危険も~

落水が生命の危険に直結するのは、水に溺れる可能性があるからだけではありません。一気に水を飲んでしまって肺に水が入ることにより引き起こされる心原性ショックや、冷たい水に急に入った時の低音ショックにより、心臓が止まってしまったり呼吸不全を起こしたりすることもあります。

また、水温の低い水中に長時間いると低体温症になります。低体温症とは体温が35°C以下になる状態で、最悪の状態では意識がなくなり、重度の非常に危険な状態になります。

低体温症を防ぐためには、すぐに艇を復原して乗り込むことが理想的ですが、前述したようにボートでは再乗艇が難しいものです。転覆したままの艇の上に乗ったり、浮いているクーラーボックスに体を乗せるなどして、なるべく水面上に体を出し、体温・体力の温存を図りながら救助を待つことが次善の策となります。

また水中では、可能な限り動かず、じっとしているようにしましょう。水中では空中での20倍の速さで体温が奪われます。体を丸め、できるだけ体の表面積が小さくなるようにしましょう。ウェットスーツやドライスーツなどの、低水温期に落水しても体温を維持できる服装や、速やかな救助が可能なように複数艇で行動することも、万が一の落水・転覆に備えるための対策といえます。

水温と体温流出時間 (Minnesota Sea Grantによる)

水温	意識不明に至る時間	予想生存時間
0.3°C	15分以内	~45分
0.3~4.4°C	15~30分	30~90分
3.3 ∼10°C	30~60分	1~3時間
10∼15.6°C	1~2時間	1~6時間
15.6~21.1°C	2~7時間	2~40時間
21.1~26.7°C	3~12時間	3時間~不明
26.7°C以上	不定	不定

注)Minnesota Sea Gran tのウェブサイトで提供されている資料を個人が使用したり 信頼していることについて、一切責任を負いません。



水温の低い水中に長時間いると低体温症になる危険性もあります



~曳く船には十分な牽引力が必要~

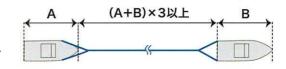
曳航は、周囲の状況と安全を考慮して、十分なけん引力を有する船で行うようにしましょう。

曳航ロープは、十分な強度が必要です。長さは通常、両船の 和の3倍程度ですが、狭い場所では短めにするなど、状況に応じ て調整してください。波の状況にも考慮が必要です。

曳航ロープは、両船の船体中心線上になるようにします。また、 両船の両舷2ヶ所以上に負荷が均等にかかるように結びます。

▲ 注 意

曳航は、曳く船のエンジンに大きな力がかかります。 オーバーヒートに注意してください。

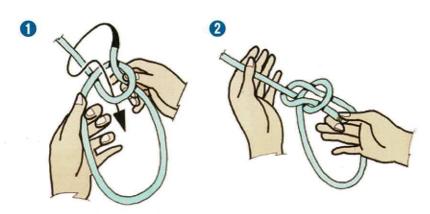


船体にロープを結ぶ金具がなければ、船体の全体に曳航ロープを回してけん引力を分散し、船首側でもう一本のロープで艇の中心線から振れ止めに固縛します(バウアイなどに結ぶ)。 曳航ロープの途中にタイヤなどの緩衝材を入れることにより、ボートや曳航ロープに掛かる衝撃を軽減できます。

曳航中、曳航ロープはいつでも外せるようにしておきます。万一のときに、ロープを切断し切り離せるようにナイフを 用意しておいてください。船の左右の揺れを少なくするために、曳かれる船の船外機をチルトアップするか、人を乗せ、曳く船の航跡をたどるようにパドルを舵の代わりに操って操船します。

曳航ロープをプロペラに巻き込まないように、ゆっくりと発進し、ロープがピンと張られてから徐々に増速します。 曳く船は曳かれる船との距離、ロープの状態、曳かれる船の異常の有無を監視してください。異常が見られたときは、 落ち着いて徐々に減速します。

停止するときは徐々に減速し、曳かれる船の行き足を無くしてから停止するようにします。



ロープのもやい結び。ボートのバウアイなどに接続したロープを曳航ロープに 結び付ける際に用いる結び方。結びやすくて解けにくく、固く締まっていても解 きやすいという特長があります



~燃料、オイル、冷却水が重要~

[初めて使用するスタートアップの概要]

詳しくは船外機メーカーの取扱説明書を熟読しましょう。

- 本項は、主要メーカーの船外機の基本事項を抜粋して記載しています。
- 必ず各社の取扱説明書をお読みください。
- 取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因になります。
- 特に注意すべき事項を以下に記載しています。安全のために重要ですので、必ずお読みいただき、遵守願います。

↑ た 険 取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う危険性が差し迫って生じると想定される事項を示しています。 取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性が想定されている事項を示しています。 ♪ 取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性が想定される事項を示しています。

注 意 取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される事項を示しています。

1. 運転前準備

1-1 エンジンオイルの補給:規定量であることを必ず確認します。

- 「● 工場出荷の梱包状態では、エンジンオイルが満量ではありません。
- 【 使用前に、必ずメーカーが推奨する種類のエンジンオイルを規定量まで補給してください。
- 「● 販売店から受け取った状態では、エンジンオイルが満量であることを確認しましょう。
- └ 規定量以下であれば、メーカーが推奨する種類のエンジンオイルを規定量まで補給してください。
- 個人から受け取った状態では、エンジンオイルを新替し、満量であることを確認しましょう。
- 規定量以下であれば、メーカーが推奨する種類のエンジンオイルを規定量まで補給してください。
- _ ギアオイルも同時に交換しておきましょう。

注意

エンジンオイルが無い状態で、運転すると重大な損傷を与える恐れがあります。必ず、エンジンオイルを規定量まで補給してください。

注意

エンジンオイル量が少ない状態でも、多い状態でもエンジンに 重大な損傷を与える恐れがあります。 必ずエンジンオイルは 規定量にしてください。

1-2 燃料の給油

- 自動車用無鉛レギュラーガソリン(以下ガソリン)を給油します。
- ●メーカーが規定する量を超えないでください。
- ガソリンは、新しいもので、ゴミの混入がないものを給油してください。
- 給油後は、燃料タンクキャップを固く締めます。
- 燃料タンクキャップ上部のエアーベントも閉めます。

1-3 エンジン冷却水の準備

- 一部のメーカーを除き、船外機のエンジンは、水冷仕様なため冷却水を準備します。
- 水に浮かべたボートに正しく設置するか、船外機スタンドに正しく据え付けて水槽タンクに適正な深さまで入れます。
- 水槽タンクに入れて運転する場合は、プロペラを外しておきます。タンクへ水の供給を確認しながら水位を保ちます。

⚠ 危 険

気化したガソリンは、引火爆発する危険があります。 ガソリンのある付近では、火気を絶対使用しないでください。

一般社団法人日本マリン事業協会

A003-00

▲ 警告

燃料は引火しやすく火災の恐れがあります。 燃料タンク等への給油時は、

- エンジンを停止してください。
- 風通しの良い所でしてください。
- 燃料をこぼさないでください。
- ・こぼれた燃料は、布などで完全に拭き取り、その布は火災及 び環境に留意して処分してください。

一般社団法人 日本マリン事業協会

B008-00

▲ 警告

一般プラスチックタンクを予備燃料タンクとして使用すると、 強度・材質の変化によりガソリンがもれる恐れがあります。 予備タンクは、消防法で認定された物やUN規格認証品を使 用してください。

一般社団法人 日本マリン事業協会

MB009-00

A 注 意

エンジン冷却水が無い状態で、運転すると重大な損傷を与える恐れがあります。必ず、冷却水を供給してください。

注 意

燃料補給時は次のことを必ず守ってください。お守り頂けない と、燃料システムやエンジンが損傷する恐れがあります。

- ・指定された燃料を使用する。
- ・長期間、燃料タンクに放置された燃料や古い燃料は使用しない。

雨天や強風の時に補給する場合は、燃料タンクに水やごみが入らないように注意してください。 つまりや故障の原因となります。

2. 始動

2-1 クランプスクリューを締め付ける

船外機の取り付け状態を確認します。

2-2 ボートで始動するとき

● ボートでエンジンを始動する前に、緊急エンジン停止スイッチのコードを腕や救命胴衣のベルトに取り付けます。

2-3 エアーベントを開ける

● 燃料タンクキャップ上部のエアーベントを2回転以上回転させ、開けます。

2-4 燃料コックを開ける

● 燃料コックを開の位置に合わせます。

2-5 シフトレバーを中立にする

● シフトレバーを中立 (Nの位置) にします。

2-6 スロットルをスタート位置にする

●スロットルグリップをスタートの位置に合わせます。

2-7 チョークノブを引く

■ エンジンが冷えているときは、チョークノブを引きます。

2-8 スターターロープを引く

- 重くなるところまでゆっくり引き、重くなったら力強く引いてください。
- 4~5回始動できなければ、チョークノブを押し戻し、スロットルを半分ほど開けた位置で始動します。
- それでも始動できないときは、スパークプラグがガソリンで湿り点火できない恐れがあります。 付属工具でスパークプラグを外して点検し清掃します。

2-9 アイドル回転にします

- エンジンの始動後は、エンジン回転を確認しながらチョークノブを押し戻します。
- スロットルを戻し、アイドル回転にします。
- 検水口から冷却水が排出されていることを確認します。冷却水が出ていなければ、直ちにストップスイッチを押して、エンジンを停止し、販売店にご相談ください。(空冷タイプの船外機を除く)

A 警告

船外機艇は、エンジンを始動する前に船外機が艇体に確実に 固定されていることを確認してください。固定が不十分でエン ジンを作動させると、船外機が外れて重大な事故につながる 恐れがあります。

▲ 警告

- ●コードタイプの緊急エンジン停止スイッチが取り付けられているボートは、操船する前に操船者の救命胴衣などにコードを必ず取り付けてください。事故などで操船者が操船位置から離れた時にボートが暴走し、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ●緊急時以外は使用しないでください。急なエンジン停止により、乗員が転倒したり落水したりして、けがをする恐れがあります。
- ●緊急エンジン停止スイッチが作動してもプロペラが停止するまでに数秒間かかります。プロペラが回転している間は 近付かないでください。

3. 運転

3-1 シフト操作(前進と後進) ※シフト操作は必ずスロットルグリップを戻し、アイドリング回転になってから行います。

- 前進:シフトレバーを素早く前進側に倒します。
- 後進:シフトレバーを中立位置にした後、船外機を180度反転させ、シフトレバーを素早く前進側に倒します。

3-2 速度を上げる

● スロットルグリップを右回転させると、エンジンの回転が上がり、速度が上がります。

3-3 巡航速度

● スロットルグリップを8割程度回転させた速力で運用します。

3-4 慣らし運転

● 新しいエンジンは、メーカーが定めた慣らし運転を必ず行ってください。

▲ 警告

急な加減速はしないでください。乗員が転倒や落水する恐れ があります。

▲ 警告

航走中は常に操舵装置から手を離さず、万が一のときにすぐ に対応できるようにしてください。

注 意

- ●エンジンを高回転で作動させた直後にエンジンを停止させないでください。排気管よりエンジンに水が入り、故障の原因になります。
- ■緊急時以外は緊急エンジン停止スイッチを使用したエンジン停止をしないでください。

A 警告

エンジン高回転時にシフト操作すると、急加減速による乗員の 転倒やクラッチ・ギヤ等の損傷の恐れがあります。 アイドリン グ回転時にシフト操作をしてください。

A 警告

急な旋回はしないでください。乗員が転倒や落水する恐れが あります。

アドバイス

船外機固定クランプスクリュー(ハンドル)が固く締め付けられていることを定期的に点検しましょう。

4. 停止

4-1 スロットル操作

- スロットルグリップを戻し、アイドリング回転まで下げます。
- シフトレバーを素早く中立位置に戻します。
- ●ストップスイッチを強く押し、エンジンを停止させます。

5. 運搬

5-1 運搬方法

- ●直立状態で運搬します。
- 横に倒して運搬する場合は、燃料のガソリンが漏れます。
 メーカーの取扱説明書に記載の通り各バルブを閉めるか、エンジン内の燃料を抜いてください。
- ●横にする方向が決められています。メーカーの指示通りに倒して運搬してください。

始動しない時のチェックポイント

- 燃料が入っているか
- 燃料コックが開いているか
- 燃料タンクのエアーベントは開いているか
- 緊急エンジン停止スイッチのコードは装着されているか



やむを得ず船外機を倒した状態で運ぶ場合は、取扱説明書の向きを守ること。間違った向きで置くと故障の原因になります



エンジンオイルは常に規定量入っているか チェック。また定期的な交換も必要です



この丸窓がオイル量を確認するゲージ。規 定量より多くても少なくてもいけません



古くなったガソリンはゴミや不純物が混じり、 エンジン故障の原因になります。燃料タンク の劣化や水の混入にも注意しましょう



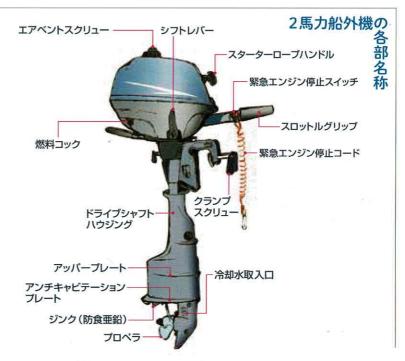
燃料コックの開閉レバー。運搬時にはコック を閉めておかないと燃料が漏れます。始動しない時は開け忘れをチェック



操船者にコードを接続しておくと、操船者が 落水した際にコードが引っ張られて抜け、エ ンジンが緊急停止します。抜けているとエン ジンが始動しません



スターターロープをゆっくり軽く引き、止まった ところから力を入れて引くのが始動のコツ。コ ツをつかめば女性でも簡単に始動できます





⑪ 船外機の点検整備

~冷却水系統は清水で洗浄する~

ボートのエンジンは、自動車のエンジンと違い、高負荷・高回転で使われるうえ、エンジン内を海水で冷却するため塩害の影響もあります。適切な点検整備をしないと、時間経過とともに故障率が高くなります。メーカーの取扱説明書に従い、点検整備を行いましょう。

● 日常の点検整備:メーカーの取扱説明書に従いましょう

エンジン使用後は、冷却水系統を清水で洗浄します(空冷タイプの船外機を除く)。船外機スタンドに船外機を据え付け、**清水の入った水槽に脚の部分を入れた状態で、清水を供給しながら数分間アイドリング回転で運転し**(シフトレバーは必ずニュートラルにしておく)、**清水を循環**させます。また、船外機全体に清水をかけ、塩分を落とします。プロペラが損傷していたり、釣り糸やロープを巻き込んでいないかも点検しましょう。

キャブレター内に残った燃料が乾燥して固着することを防ぐために、抜くか使い切りましょう。また、使用前には、燃料フィルター内に汚れや水の混入がないかを点検し、汚れているようなら整備士に洗浄を依頼します。長期間保管する場合は、結露水が溜まることを防ぐためにもタンク内の燃料を抜き取っておきます。劣化した燃料は、始動不良や機関停止の原因にもなるので、使わないようにしましょう。

● 定期的な点検整備:メーカーの取扱説明書に従いましょう

各部の点検のほか、摺動部分には定期的にグリスアップを行います。エンジンオイル、ギアオイル、スパークプラグ、アノード(エンジンの腐食を防ぐための犠牲金属)、冷却水をくみ上げるためのポンプのゴム製インペラなど消耗品の交換は、定期的に行ってください。また、燃料フィルターを通過してしまう給油時に混入する細かなサビやゴミを燃料タンクから除去するなど、1年に1度、販売店などに総合的な点検整備を依頼すれば安心です。

中古機の点検整備

現状渡しで購入される場合、水槽での確認運転では真の確認ができません。負荷をかけるため艇に装備し、連続運転をして確認する必要があります。慎重にシフト操作の音・タッチを確認し、クラッチの作動確認が必要です。また、連続運転での高負荷で冷却水の出具合、オイルのにじみや異常振動等がないか確認しましょう。



プロペラの付け根に釣り糸を巻き込んでいると、シーリングが破れて大きな故障の原因になることもあります。日常的にチェックしましょう



水冷式船外機の場合、使用後に冷却水取り入れ口から清水が供給 される状態で運転し、冷却海水が通る経路を洗います



⑫ ボートの取り扱い

~ドレンプラグの締め忘れにも注意~

● セルフベイラー(固定ドレン)の使用に関する注意事項

- 1) 通常使用の場合は必ずセルフベイラーを閉めてください。
- 2) 走航時、船内に水が入ってセルフベイラーを開く場合は、セルフベイラーの外蓋(ゴム製の逆止弁)が機能しているかを確認してセルフベイラーを開いてください。 但し、停泊時には必ずセルフベイラーを閉めてください。
- 本項は、小型ボートの基本事項を抜粋して記載しています。
- ●必ず各社の取扱説明書をお読みください。
- 取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因になります。
- 特に注意すべき事項を以下に記載しています。安全のために重要ですので、必ずお読みいただき、遵守願います。

▲ 危 険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う危険性が差し迫って生じる と想定される事項を示しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性が想定されている事項を示しています。



■ 取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性が想定される事項を示しています。

注 意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される事項を示しています。

アドバイス

➡ 正しい操作方法や作業上のポイントを示しています。

1) 定員

ボートに乗船する人数は、定員を絶対に超えてはいけません。

2) 搭載エンジン出力

ボートは2馬力が上限です。2馬力以上のエンジン を搭載しないでください。

3) 排気ガス

エンジンからの排気ガスは、一酸化炭素(CO)を含んでいて危険です。

4) プロペラアタック

遊泳者等の付近で航走すると、怪我や死にいたる 恐れがあります。

水中にいる人の近くでは、絶対にプロペラを回 さないようにしましょう



▲ 警告

定員を超えて乗船すると、転覆の恐れがあります。 定員を守ってください。

一般社団法人日本マリン事業協会

B001-00

▲ 警告

オーバーパワーは操縦が不安定になり、転覆等の恐れがあります。 指定最大出力を超えるエンジン搭載はしないでください。

一般社団法人 日本マリン事業協会

B003-00

▲ 警告

排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をひきおこす恐れがあります。船室内やボート後部周辺に溜まる場合があるので、吐き気、 頭痛、めまい、眠気を感じたら新鮮な空気を取り入れるか、新 鮮な空気の場所に移動してください。

一般社団法人 日本マリン事業協会

B004-00

▲ 警告

回転中のプロペラに触れると、遊泳者が重傷あるいは死にいたる恐れがあります。

- ・遊泳者に近づかないでください。
- ・近くではエンジンを停止してください。

一般社団法人日本マリン事業協会

B005-00

5) ドレンプラグ

ドレンプラグは上架した時に船内の水を排水するための栓です。



船尾側に設けられたドレンプラグ。ボートを陸上に揚げた際はここを開けて水を抜きます

6)船上における移動

立つと重心位置が高くなり、落水や転覆にいたる恐れがあります。

7)燃料系統

ガソリンは、爆発・火災の恐れがあり、取り扱いに十 分注意する必要があります。

⚠ 危 険

気化したガソリンは、引火爆発する危険があります。 ガソリン のある付近では、火気を絶対使用しないでください。

一般社団法人日本マリン事業協会

A003-00

8) 予備燃料タンク

ガソリン用予備タンクの 材質や陸上での運搬は消 防法で定められています。



予備燃料タンクは、消防法で 認定された物やUN規格認証 品を使用しましょう。手前は気 化による内部圧力を抜く弁です

A 警告

ドレンプラグの締め付け不良は、浸水、沈没の恐れがあります。 進水前に確実に締め付けてください。

一般社団法人 日本マリン事業協会

B006-00

▲ 警告

立つと重心位置が高くなり、転覆や落水の恐れがあります。よつんばいで移動してください。

▲ 警告

燃料は引火しやすく火災の恐れがあります。燃料タンク等へ の給油時は、

- ・エンジンを停止してください。
- ・風通しの良い所でしてください。
- 燃料をこぼさないでください。
- ・こぼれた燃料は、布などで完全に拭き取り、その布は火災及 び環境に留意して処分してください。

一般社団法人日本マリン事業協会

B008-00

▲ 警告

一般プラスチックタンクを予備燃料タンクとして使用すると、 強度・材質の変化によりガソリンがもれる恐れがあります。 予備タンクは、消防法で認定された物やUN規格認証品を使 用してください。

一般社団法人日本マリン事業協会

MB009-00

9) バッテリー

バッテリーは電動エンジンや電気設備等へ電力を供給するもので、その取り扱いは十分に注意します。

▲ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生し、引火爆発の恐れがあります。 バッテリー付近では火気を絶対使用しないでください。

一般社団法人日本マリン事業協会

B010-00

▲ 警告

バッテリーの火花がガソリンに引火すると、 爆発の恐れがあります。バッテリー付近には ガソリンの入った容器を置かないでください。

一般社団法人日本マリン事業協会

B011-00

10)エンジン回転中の作業

エンジン回転中にエンジンケーシングを外して作業すると、回転物等に触れけがの恐れがあります。

11)シフトとスロットル

シフトとスロットルは正しく操作しなければなりません。

▲ 注 意

エンジン回転中にエンジンケーシングを外して作業すると、回 転物等に触れけがの恐れがあります。 エンジンを停止して作 業してください。

▲ 注 意

エンジン高回転時のシフト操作は、急加減速による同乗者の 転倒やクラッチ・ギアー等の損傷の恐れがあります。 エンジン 最低回転にてシフトしてください。

12)ゴミの除去

船外機のプロペラにロープやゴミが引っかかることがあり、これを取ろうとするときは浸水・沈没しないように注意して作業をしましょう。また、ニュートラルにするだけではなく、必ずエンジンを停止して安全にゴミ取り作業をしましょう。

⑬ ボートトレーラーの取り扱い

~連結方法~

トレーラーと牽引車両の連結方法です。

●トレーラージャッキを収納します。



トレーラージャッキのロックピンが完全にロック状態にあることを確認してください。





配線カプラーを車体に接続します。

しっかりと奥まで差し込んでください。

配線ソケットは、出っ張りのある部分が上方向になります。 車体側は上方向に溝がついていますので向きを合わせてください。



差し込んだ状態

- ●配線を差し込んだら、灯火類の確認を行ってください。
 - ・ブレーキ
- ・ライセンスランプ
- ・ライト
- ・車幅灯
- ・バックランプ
- ・ウィンカー右
- ・ウィンカー左



灯火類が問題なく点灯することを必ず確認してください。 灯火類は高耐水性ですが、完全防水ではありません。 故意に水没させることは避けてください。

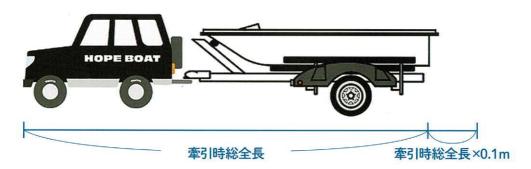
~積載方法~

トレーラーへの積載方法です。

● ボートトレーラーにボートを積載する場合、トレーラーの最大積載量を超えての積載は、行わないでください。 ヒッチボールにかかる重量は以下の通りです。

> 車両総重量: 450kg以下のトレーラーの場合 15kg以上、45kg以下

● 牽引車両とボートトレーラーを合わせた全長の10%が走行時にはみ出ても良い長さになります。



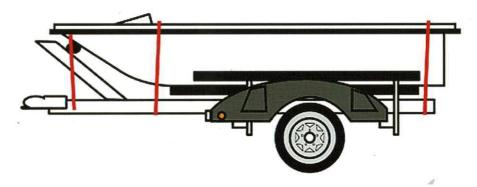
● 牽引車両から切り離してボートを上げ下ろしすると、重心が大きく傾き、転倒の可能性があります。やむなく、牽引車両から切り離して作業を行う場合、アウトリガー(オプション)を使用するなど対策を行い、十分注意して作業に取り掛かってください。



~積載方法~

トレーラーへの積載方法です。

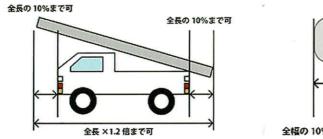
● 牽引しての移動時は、必ずボートとトレーラーをしっかりと固定してください。ウィンチのロックは移動時の振動で 外れる可能性もあります。そのため、ウィンチを過信せず、トレーラーと船体をラッシングベルトや、ロープで固定 を行ってください。



● GT TRAILER は、角型マルチフックが4ヶ所設置されております。上手に活用し、ボートの固定を行ってください。



令和4年5月より、自動車の積載制限が緩和されました。車両の全幅を超えて積載可能となっています。 全幅×0.2 (片側 0.1 ずつ。片方に0.2 は不可) となります。また、全長においても前後合わせて0.2 (片側 0.1 以内) となっています。



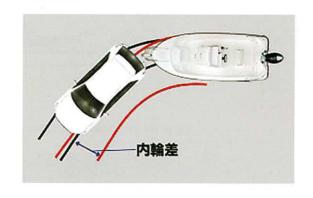
~トレーラー走行について~

トレーラー連結時の操作方法・注意点です。

トレーラー連結時は連結していない時に比べ、特に注意して運転してください。

通常の状態より、全長が長くなっているため、曲がる時や、バック時など特に注意が必要です。曲がる際には内輪差 があるので、特にバイクや自転車、歩行者には注意してください。

■ 黒のラインが牽引車両の進む動きを表しています。 赤のラインはトレーラーの進む動きを表しています。 牽引車両のラインとトレーラーのラインとの内側の差を 内輪差と呼びます。つまり牽引車両とトレーラーとでは 同じように曲がっても、通り方が違います。



●トレーラーを牽引している状態でのバックは、ハンドル を切る方向が逆向きになります。

左にバックしたければハンドルを右に切り、逆に右に バックしたければハンドルを左に切ります。

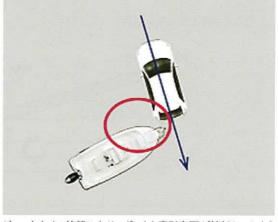
もし、思い通りにバックできない場合は一旦前進し、再 度バックし直してください。 急な角度 (ジャックナイフ状 態)になると牽引車両とボートが接触してしまいますの でご注意ください。



左方向にバックする場合



右方向にバックする場合



ジャックナイフ状態になり、ボートと牽引車両が接触してしまう 状態になる。

14 海上交通のルール

~船は右側通行が基本~

免許不要のミニボートでも守らなければならないルールとして「海上衝突予防法」があり、その主な決まりは以下の通りです。

● 行き会い船のルール

船と船が正面で行き会い、そのまま進むと衝突のおそれがある場合、 お互いに船首が右方向に向くように舵を切って避けなければなりません。

● 横切り船のルール

2隻の船が、互いの進路を横切る関係で進んでいて、そのままでは衝突のおそれがある場合は、相手を右に見る船(図のA船)が、針路を変更したり、スピードを落としたりして、相手(図のB船)を避けなければなりません。相手がルールに合った動きをするとは限らないので、十分に手前からスピードを落としたり、安全な方向に舵を切るなどして、なるべく他船と危険な位置関係にならないように心掛けましょう。

● 追い越される船のルール

追い越される船は、針路・スピードを保っていなければなりません。 またミニボートは、追い越した船の曳き波の影響で転覆する危険性もあるので十分注意しましょう。



行き会い船のルール

以上のケースに限らず、ミニボートは、速力が遅く危険回避に時間を要することや、他船の曳き波の影響を受けやすいので、安全のためにも他船には近づかないようにしましょう。

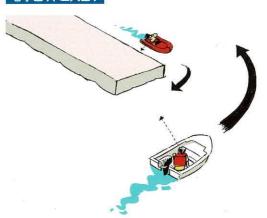
そのほかに、ミニボートで知っておきたい交通ルール(法律)として、港の出入り口でのルールがあります。

● 右小回り、左大回りのルール

防波堤などで見通しが悪い港の出入り口で、港から出て行く船と 入っていく船の出会い頭の衝突を防ぐために、「防波堤などの先端を右に見て走る船は、できるだけこれに近寄って走らなければならない」と法律で定められています。逆に防波堤を左に見て走る船は、防波堤から遠ざかって走ります。

なお、港の出入り口では、港から出て行く船が優先。また、港の出入り口や航路(船の通り道)では、釣りをしてはいけません。

右小回り、左大回り







~発航前の点検は船長の義務~

海に出る前には、エンジンの状態や船体の状態、安全のための装備品が搭載されているかを点検します。この「発航前点検」は、船長の遵守事項です。

点検中に異常が見つかった場合は、必ず修理あるいは整備を済ませてから使用してください。

発航前の検査

船体の検査

- ✓ 1. 船体に亀裂や破損はないですか。
- ✓ 2. 床板、トランサム板、および空気漏れ等に異常はないですか(インフレータブルボート)。

エンジンの検査

- ☑ 3. 燃料は航海計画に対して十分ですか。万一のために、携行缶の予備燃料を携行しましょう。
- ✓ 4. 燃料コック(バルブ)は開いていますか。
- ▼ 5. 燃料タンクのエアーベントスクリュー(空気抜き)を開放しましたか。
- ✓ 6. 燃料フィルターにゴミ詰まりや水分の混入はないですか。
- ✓ 7. エンジンオイル (潤滑油) は適量ですか。
- ▼ 8. エンジンは正しく固定されていますか。

救命設備等その他の検査

- 9. 救命胴衣を着用しましたか。
- ▼ 10. 通信手段の携帯電話の充電量、予備バッテリーは確認しましたか。
- ✓ 11. 気象・海象情報、水路情報は確認しましたか。
- ✓ 12. 他船からの視認性を上げる小旗(レッドやイエローのフラッグ)を立てましたか。
- ✓ 13. 緊急エンジン停止コードは操船者に正しくセットしましたか。

エンジン始動後の検査

- ✓ 14. 冷却用の海水は普段通りの量および勢いで排出されていますか。
- ▼ 15. エンジンからの異常な音や臭いは出ていませんか。
- 16. ハンドルやスロットルの動きはスムーズですか。

⑩走航中の注意点

~人や重量物の位置にも配慮~

● 夜は出艇しない

夜は、ミニボートは他船から見えづらいほか、自船からも周囲の状況を確認しにくいので、衝突の危険性が高まります。また、自船の位置がわからなくなり帰れなくなることもあるので、夜間や、未明のまだ暗い時間帯には航行しないようにしましょう。

● 複数の艇で行動する

エンジントラブルや、万が一転覆、落水してしまった場合にも、 近くに仲間のボートがいればすぐに助けを求めることができま す。単独行動はせず、複数の艇で行動しましょう。出艇時には 家族や出艇場所の管理者など、陸上にいる人に予定を伝えて おくことも必要です。

●遠くまで行かない

エンジン付きといっても、ミニボートの航行性能は高くありません。エンジン故障時のことも考え、オールで帰れる範囲で行動しましょう。岸から1km程度、陸上にいる人々の動きがわかる程度の距離が目安です。岸から近ければ天候の急変にも対応しやすくなります。

● 周囲の状況に注意を払う

海上衝突予防法では、周囲の状況を判断し、目や耳をはじめ、 その時の状況に適した手段を使って常に見張りをしていなければならないと定めています。 進行方向だけでなく、左右や後 方もしっかり確認しましょう。 他船だけでなく定置網などの障害 物や、流木などの浮遊物、大型船が通過したあとの曳き波にも 注意が必要です。

and the second

● デッキ排水型小型ボートの使用に関する注意事項 〈走行時〉

- 1) 走行時はデッキスカッパーの蓋を必ず閉めて走航してください。
- 2)ボートに荷物の積み過ぎには注意してください。
- 3)規定馬力以上・質量オーバーの船外機は絶対に使用しないでください。
- 4)停泊時ボートのバランスを見て水位を確認の上デッキスカッパーの蓋を開いてください。
- 5)波立った水面ではスピードを落として走航してください。





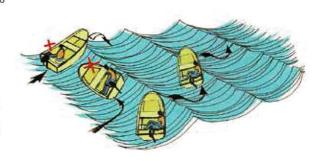
● ボートのバランスに気をつける

ミニボートは、人が乗る位置や荷物の積み方などが、バランスに大きく影響します。バランスが悪いとスピードが出ないだけでなく、艇が不安定となり危険です。特に1人で乗る場合は船尾側に重量が集中しやすく、船尾が沈んで、船首が極端に上がってしまうことがあります。そのままの状態だと向かい風にあおられて転覆する可能性もあるので、重量物を船首側に置くなどしてバランスを取るか、スピードを落として走るなど対処が必要です。



●横波を受けて走らない

ボートは横からの波を受けるとバランスを崩しやすい。また 後方から波が打ち込み、船内に水が入って安定性が悪くなる状態も危険です。波を乗り越えて走る際は、やや斜め前から波を受けるように走ると、比較的安全に乗り切ることができます。



●ロープを垂らしたまま走らない

走行中、ロープを水中に垂らしたままだと、ロープがエンジンのプロペラに巻き込まれ、エンジンが止まってしまうトラブルの恐れがあります。プロペラに巻き込んだロープはなかなか外れませんし、エンジンの故障につながる場合もあります。釣り糸を巻き込むことも多いので注意しましょう。また、プロペラに絡んだ藻などを外そうとする際は、ボートのバランスが崩れて危険なので慎重に行わなければいけません。



● 航行禁止区域に立ち入らない

いわゆるローカルルールで、エンジン付きボートが入っては いけないエリアがあります。環境保全のために乗り入れが禁 止されているところもあるので、事前に確認しておきましょう。ま た、シーズン中の海水浴場はエンジン付きボートの侵入や出艇 は禁止。海水浴場に限らず、エンジンを掛けプロペラが回って いる状態で、人が泳いでいるところに近づくのは大変危険です。

河川通航標識の例

[動力船通航禁止]







● 離岸流に入らない

海浜流:沖から岸に流れる向岸流、岸に沿って流れる並岸流、岸から沖に流れる離岸流があります。特に、離岸流は幅が10m~30m程度ですが流速が速いところで約4ノット(約7km/h)ですので、離岸流を避けて帰港しましょう。

1 釣りをする際の注意点

~釣りの最中も周りをよく見る~

ボートを止めて釣りをする際の注意点も、基本的には前段の走航中の注意点と同様。ボートのバランスを崩さないよう注意すると同時に、常に周りの状況に目を配りましょう。特に、釣りに夢中になっていると、周りが見えなくなるものです。近くを通る船だけでなく、その曳き波も危険。通り過ぎてしばらくたってから大きな波が来ることもあります。そして、気がついたら海が荒れていた、ということにならないよう、風の変化や海象を常に観察していることも必要です。アンカーを掲げるときは、ボートのバランスを崩しやすいので注意しましょう。また船尾からのアンカーや、前後にアンカーを打ついわゆる2丁アンカーは、波が打ち込みやすくなるなど危険です。

アンカーを打たず、風や潮で流されながら釣りをする場合は、流されていく方向にある障害物や岩、網やブイなどに注意。船が多いエリアでは流し釣りは避けましょう。なお、定置網などの漁業施設やブイなどにボートをつないで釣りをしたり、航路内で釣りをしてはいけません。他にも釣り禁止の場所や禁止されている釣法など、そのエリアのローカルルールがあるので、事前にきちんと把握しておきましょう。

オレンジフラッグ安全小旗



ミニボートには必須



●イケス使用時の注意事項

過積載の場合イケスから水が溢れ出ることがありますので イケスとして不適切な水位の場合は物入れとして使用して下さい

13 ボートの出艇場所

~持ち込み禁止の砂浜もある~

自動車で運ぶこともできるタイプのミニボートは、いろいろな場所で降ろして出艇できるのも大きなメリット。ただし、 どこで降ろしても良いわけではありません。

スロープを備えた漁港・マリーナや自然の砂浜でも、諸々の理由でボートや水上オートバイを持ち込むことが禁止されているところがあります。ボートを購入した販売店などに確認し、問題なく出艇できるところを選びましょう。

なお、スロープや砂浜が利用禁止になる原因のひとつとしては、利用者が残していくゴミや、朝早くからの騒音、自動車を適切な駐車場所に移動させず邪魔になる、漁具を踏んだり傷つける……といった問題があります。現在利用できる出艇場所も、そういった迷惑行為により閉鎖されてしまう可能性がありますから、マナーを守って利用しましょう。



利用料を払えば、安心してスロープや水道が利用でき、駐車場なども完備する港もあります。 愛好家が 集まるので情報収集の面でもメリットがあります

マナーを守ろう

駐車場、駐車スペース以外に 、駐車しない。ゴミは持ち帰る

漁港に干してある漁具を 踏まない 深夜や早朝、駐車場で騒いだり エンジンの空ぶかしをしない







19 ボートの購入と管理

~適切な保管はオーナーの義務~

ボート購入の際には、日本小型船舶検査機構(JCI)が行う予備検査に合格した商品を推奨します。

船外機を改造して搭載すると危険です。また、本来は2馬力までしか搭載できないミニボートに追加でエレキモーターや1馬力船外機などを搭載すれば2馬力以上になり、ミニボートとしては法律違反(小型船舶操縦士免許を持っていなければ無免許運転で30万円以下の罰金、船舶検査証書を受有しないで航行すると1年以下の懲役または50万円以下の罰金)になります。

ボートは適切な場所に保管する必要があります。河川や海岸は公共の管理地であり、無許可でボートを置いてはいけません。放置や投棄は廃棄物処理法により処罰されるだけでなく、不適切な保管により、ボートが無人状態で漂流してしまう事例も起きています。この場合は事故として大がかりな捜索が行われ、各方面に大きな迷惑をかけることになります。万が一、流出した場合は、海や港では最寄りの海上保安庁、河川や湖では警察署や消防署に連絡してください。

いらなくなったボートの処分についても注意が必要です。まず、いかなる場所でもボートを燃やすことは禁止されています(廃棄物の処理及び清掃に関する法律等で罰せられます)。個人所有の場合は家庭ごみとなるので、各自治体のごみ取り扱い窓口と相談して処分するか、FRP製ボートならばFRP船リサイクル受付店の登録販売店と相談し処分します。



●FRP船リサイクルセンター

TEL: 03-5542-1202

基準適合標示の種類

	適合基準	標示	写真(例)
艇体	①JCI予備検査	証印	II (T
	②ミニボート 技術指針	JMIA 適合マーク	₩IA
船外機	③製造認定品	証印	
	④JCI予備検査	証的	T

ミニボートには、ある一定の基準に基づいて製造され、復原性や浮力に関する検査を行ってから、市場に流通しているものがあります。これらの製品は、船体または船外機にそれぞれ表のような証印または適合マークが標示されています。

①、③、④の証印は、国が定める検査基準に合格した製品に標示されています。ミニボートは国または日本小型船舶検査機構 (JCI) の検査が必要ないボートですが、2馬力を超える船外機も搭載できるよう、製品出荷前にメーカー等がJCI予備検査を受けている艇体も少なくありません。そのような艇体であれば、将来、2馬力を超える船外機に換装することが容易です(JCI検査を受ける必要が生じますが、予備検査受検艇は艇体の検査が簡略化され受検が容易になります)。

また、②の適合マークは、日本マリン事業協会がミニボートの 最低限度の安全性を確保することを目的に規定した「ミニボート 技術指針」の要件を満足した艇体に貼付されています。

これらの標示を購入時の参考としてください。ただし、気象、 海象、使用方法、使用状態によっては、転覆や故障等の危険性 はあります。一番大切なことは、ユーザーであるあなたが適切 に使用しなければならないということを忘れないでください。

E

②ボート免許

~ボート免許受講で船や海の知識を身に付ける~

●ボート免許が必要な船

船舶の長さが3m以上、または出力1.5kW以上のエンジンで航行するには、小型船舶操縦士の免許が必要になります。

●ボート免許の種類

ボート免許には、「一級」「二級」「二級(湖川)」「特殊」があり、それぞれの免許で操縦できる船と航行できる水域が異なります。

— 級

総トン数20トン未満、または、長さが24メートル未満で用途がスポーツやレクリエーションに限られる船が操縦できます。航行区域に制限はありません。ただし、水上オートバイは操縦できません。外洋で釣りをしたり、ヨットで国際航海をしたい方は、一級が必要です。

二級

一級と同じ船が操縦できますが、航行区域は、平水区域 (河川、湖沼や港内と、法令に基づいて定められた51ヵ所 の水域)、および海岸から5海里(約9km)以内の水域で す。水上オートバイは操縦できません。沿岸や湖での釣り など、陸から近い場所でボートを楽しむ方に適しています。

二級(湖川)

総トン数が5トン未満で、エンジンの出力が15kW(約20.4馬力)未満の船を、湖や川および指定された海域だけで操縦できる免許です。小馬力エンジンの船を利用し、湖や川だけで釣りなど楽しむ方には適しています。

特殊

水上オートバイ専用の操縦免許です。



●ボート免許を取る方法

ボート免許を取るには、大きく分けて2つの方法があります。



2 船外機のトラブルシューティング

洋上でできる処置は、下記チャートの青色の項目です。

必ずシーズン前の点検整備を整備士に依頼し、使用前の発航前点検を実施し、不具合が確認された場合は 出航しないで整備しましょう。詳しくはエンジンメーカーの取扱説明書をお読みください。

現象	内容	原因	処置
始動しても止まる 航走中に時々止まる	燃料タンクに燃料はある	通気ノブ(エアーベントスクリュー) が開いていない	ノブ(エアーベントスクリュー)を 確実に開く
		チョークが引かれている	チョークをもどす
		燃料に水が混入、または 劣化している	整備士に整備を依頼する
		燃料フィルターに ゴミが詰まっている	整備士に整備を依頼する
		アイドリング回転が低い	整備士に整備を依頼する
		キャブレターの詰まり	整備士に整備を依頼する
		サーモスタットの故障	整備士に整備を依頼する
オーバーヒート	検水口から水が出る	点火プラグの品番の違い	正しい品番のプラグに交換する
		エンジンオイルの減少・劣化	整備士に整備を依頼する
		冷却水回路の詰まり	整備士に整備を依頼する
	検水口から水が出ない	冷却水取り入れ口の詰まり	ゴミを除去する
		海水ポンプインペラの破損	整備士に整備を依頼する
		冷却水回路の詰まり	整備士に整備を依頼する

2 船外機のトラブルシューティング

洋上でできる処置は、下記チャートの青色の項目です。

必ずシーズン前の点検整備を整備士に依頼し、使用前の発航前点検を実施し、不具合が確認された場合は 出航しないで整備しましょう。詳しくはエンジンメーカーの取扱説明書をお読みください。

現象	内容	原因	処置
エンジンが始動しない	キャブレターに燃料が来ない	燃料タンクに燃料が無い	燃料の補給
		燃料コック・レバーが 開いていない	燃料コック・レバーを開にする
		燃料タンクフィルター・ ホースの詰まり	整備士に整備を依頼する
	キャブレターに燃料は来る	キャブレターのオーバーフロー	整備士に整備を依頼する
		キャブレターの詰まり	整備士に整備を依頼する
	-	燃料に水入り、または劣化	きれいな燃料に交換する
	点火系の不良	点火プラグの汚れ	点火プラグの清掃
		火花隙間の不良	火花隙間の調整
		点火プラグキャップの外れ	点火プラグキャップを正しく付ける
		点火プラグの不良	点火プラグの交換
		- 非常停止スイッチのクリップの 取り付け不良	クリップを確実に取り付ける
		点火プラグの締め付け不良	プラグを確実に締め付ける
		ワイヤーハーネス、停止スイッチ、 高圧コード等の不良	整備士に整備を依頼する
	セルモーター及び	バッテリーの消耗	バッテリー交換
	電気系統の不良	バッテリーからの通電	ターミナル等の清掃

② 船外機のトラブルシューティング

洋上でできる処置は、下記チャートの青色の項目です。

必ずシーズン前の点検整備を整備士に依頼し、使用前の発航前点検を実施し、不具合が確認された場合は 出航しないで整備しましょう。詳しくはエンジンメーカーの取扱説明書をお読みください。



● 走航中に船外機の異音に気づいたら、船外機を停止しプロペラを確認してください。

船外機のチルトを上げて、プロペラや吸水口に付いているゴミや海藻を取り除き、船外機のチルトを下げて始動してください。なお、船外機の検水口から水が出ているかを必ず確認してから走航してください。

自船の安全確保3か条

出航前、機関や燃料等の点検の実施

発航前は、船体とエンジン回り、燃料・潤滑油の量を点検するとともに、 最新の気象・水路情報を入手しましょう!

🗿 航行時、常時見張りの徹底

航行時は、他の船舶の動向や浅瀬・定置網など周囲の水域の状況を継 続して把握する必要があることから、常時適切な見張りを実施しましょう!

(3) 故障時に備え、救助支援者の確保

事故で最も多いのが機関故障! 発航する際は、万が一の機関故障に備 え、仲間の船やマリーナ等の救助艇による救助体制をあらかじめ確保し ておきましょう!

また、併せて入航時刻等を家族やマリーナ等へ連絡しておきましょう!

ウォーターセーフティガイド

海上保安庁が提供する ウォーターアクティビティの 総合安全情報サイト





ミニボート 編

海上保安庁 海の安全推進本部

「海の安全情報」に関するお問い合わせは、 下記あてにお願いいたします。

海上保安庁交通部安全対策課 TEL 03-3591-6361(代表)

MAIL jcg-mics@mlit.go.jp

ホープボート

FRPボート

組立型

インフレータブルボート

フロア・アルミフロア

ブボート (FRPハル・アルミハル)

アルミボート

体型

組立型



株式会社ホーブ

〒800-0112 福岡県北九州市門司区畑338-2 TEL 093-481-8080(代) FAX 093-481-8811

http://www.hope1970.co.jp

- ●品質向上の為、仕様を予告なく変更する 事があります。
- ●最も安全·安心なボートにする為、FRP ボートの空気室に浮力体を入れました。 ●価格はすべて税別です。
- ●商品の送料は、全て別途です。●価格は、予告なく変更する事があります。

